

■ 県民講座 2007

回		日 時		テーマ	講師(敬称略)	内容
第 1 回	人権全般	7 月 28 日 (土)	13:00～ 13:10～ 16:10	開講式・オリエンテーション 誰もが、幸せで元気に生きるための 地域人権学習 ～いじめ・虐待・ストレス・暴力を越えて～	ホリスティック教育実践研究所 所長 金 香百合	誰もが、この地域で、幸せで元気に生きることができたら 素晴らしいことですね。 でも現実には、家庭の中でも、地域の中でも、たくさん暴力や差別や犯罪が起こっています。そのため不安感や不信感がつのり、人間関係が孤立したり断絶したりという悪循環につながってしまいます。 今こそ「幸せで元氣」を実現する「人権文化」の土台を、私たちの暮らしの中からつくり上げていきましょう。 家庭と地域を幸せに元気にしていくための地域人権学習を、今回は自尊感情・暴力理論の視点から紹介します。 日常生活の中からすぐに取り入れることが出来ることばかりです。 「幸せで元氣な笑顔」が花咲く人権文化の地域づくりを一緒に始めましょう。
			13:00～ 13:10～ 14:40	オリエンテーション 違いを尊重し共に生きる	アフリカ系カナダ人の語学講師で絵本作家 ジョエル アソグバ	「にじって、いろんないろがひとつになっているからきれいなんだね。」 七色に輝く虹のように、私達人間も自他の違いを尊重し、調和のもとに生きてこそ、争いのない安定した社会が実現できる。そんな平和、多様性のメッセージを込めた話。 (ジョエル アソグバ講師のホームページ http://www2.saganet.ne.jp/joel/)
第 2 回	外国人	8 月 18 日 (土)	14:50～ 16:20	在日のルーツと思い	在日朝鮮人2世 ベ トンノク	朝鮮半島と日本は最も近い隣人です。 朝鮮の遊び、食文化、キムチ、あいさつ、言葉、生活、習慣、うた(アリラン)等を分かりやすくお話しします。 朝鮮と日本の似ている点、違った点等をお話ししながら異文化を伝え、国際化に役立つ、そういう意識をよび起こします。そして、共に生きる差別のない、平和な社会をめざします。
			13:00～ 13:10～ 14:40	オリエンテーション 聴覚障害者である私からのメッセージ	奈良市聴覚障害者福祉協会 事務局長 若杉 智子	私たちは、人として生を受けた時に、人権という形にはない、かけがえのない大切なものを授けられています。しかし、成長の過程で、さまざまな制約や環境の変化により、平等に与えられていたはずの人権が、意図的に阻害されたりすることが、最近では増えているように思えてなりません。 私は、中学2年生で聴力を失いました。コミュニケーション手段を失うことの悲惨さが、最近の「いじめ」を受けている子どもたちの姿とダブリます。伝え合うことの大切さをもう一度みんなで考えてみたいと思います。
第 3 回	障害者・高齢者	9 月 22 日 (土)	14:50～ 16:20	「ぼけても普通に暮らしたい」 老いを地域で支えるために	社会福祉法人 福岡ひかり福祉会 第2宅老所よりあい 所長 村瀬 孝生	老いて介護が必要となったとき、「あなたは何処で誰とどう生きますか?」。老いてさらに認知症や身体障がいを抱えたとき、その余生にいったい誰が付き合ってくれるでしょうか。現代社会は「老、病、死」を地域や家庭から排除してしまった時代であるとも言われています。そのことが私たちの暮らしに与える影響をもに考えたいと思います。
			13:00～ 13:10～ 14:40	オリエンテーション 差別っていったい何やねん? ～もっとホンネで、主語は「私」で～	山口県人権啓発センター 事務局長 川口 泰司	差別なんてしていない、部落問題なんて関係ないと思っている人の心の奥底に「ほんまにそう?」と聞きたい。キレイゴト、タニンゴトじゃない、同和教育は自分自身の心の奥底のドロドロしたものをひきずり出して、取り除いて自分自身が解放されていくことなんやと伝えたい。部落問題をドンと真ん中に据えて、差別と自己解放をあつく語ります。「見えない差別」を見抜く力を、「本当の自分を取り戻そう」と、あくまでもポジティブに、若者からのメッセージを発信します。
第 4 回	同和問題	10 月 20 (土)	14:50～ 16:20	人権尊重の社会を築くために	筑紫野市教育委員会 教育委員長 近本 明	誰かが困っている。ならば困っていない人が、困っている人に、何かをしてあげる。その行為はあたりまえのこととして、社会に根ざしていく。そういう実践でありたいと願っています。 実践内容は、 1 人権問題は自分の問題であり、全ての人々の問題である。 2 何をすればよいかわからなかったが、人権問題を学んだから行動に移すことができた。 3 個々の人権課題や差別事象を学び、同和問題についての認識を深めるだけににとどまらず、他の人権課題を関連づけて、行動につなげていったこと。
			14:25～ 14:30～ 16:30	オリエンテーション 学校を拠点に 楽しく元氣な生涯学習のまち育て	秋津コミュニティ 顧問 岸 裕司	学校が持つ「学ぶ」と「施設」を地域の人々と協働・共用することで、学校の授業が充実し(学校のW I N)、同時に地域の人々の生涯学習となる(地域のW I N)「学社融合」の実践を通して、生涯学習のまち育てとともに誰でも安全で安心して学び働き暮らせるノーマライゼーションのまち育ての実践と方法を紹介します。
第 5 回	人権全般	11 月 17 日 (土)	※ 第 5 回は青少年文化ホール(田川市平松町 3-3 6)で開催します。			
			13:00～ 13:10～ 14:40	オリエンテーション 適切な自己表現とゆずり合い ～円熟した夫婦関係を目指して～	臨床心理士 蒲原くみ恵	多くのDV(ドメスティック・バイオレンス)被害者の相談を受ける中で、男女は違う育てられ方をし、異なる発達目標に向かって歩んできたことが見えてきました。生活を共にし互いにわかっているつもりでも、実際はそうでないことも多いようです。良き妻(夫)という型から相手を見たり、一方の価値観だけが優先されていませんか? 自分の気持ちや伝え、互いの違いを認め尊重し合う円熟した夫婦関係をめざして、一緒に考えましょう!
第 6 回	女性	12 月 15 日 (土)	14:50～ 16:20	男女がともに支え合い認め合う社会の実現を目指して	福岡県男女共同参画センター 館長 中嶋 玲子	国は、「男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かちあい、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会」の実現を、二十一世紀の我が国社会を決定する最重要課題と位置づけています。 「男女共同参画」に対して間違った認識を持ちたり、自分に関係のないことだと思われがちですが、私たちの身近な問題だと思います。一度聞いてみて下さい。
			13:00～ 13:10～ 14:40	オリエンテーション 子どもの心のサインをキャッチしよう	元大野城市子ども相談センター相談員 檜橋 照子	少年犯罪の中心になるのは、思春期の14才、15才、16才、17才の子どもたち。しかし、小さな頃から、親や大人の気付かないところで、その芽ができていくことが多い。また、犯罪を犯す以前に、少しずつ、そのサインを子どもたちは、発信していることが多いが、なかなか、周囲の者はそれに気付かない。そのサインを少しでも早い時期にキャッチし対応すれば、元の子どもにもどれる子どもも多い。 子どもとは言え、大人と同じ人格を持った一個人人間として、正しくサインを受けとめて、対応するために、どんなことに気をつけたらよいか。
第 7 回	子ども	1 月 19 日 (土)	14:50～ 16:20	福永宅司の一人芝居 「君をいじめから守る」	子どもの学び館 主宰 福永 宅司	子どもをめぐる悲しい事件が続いています。 いじめ問題もその一つです。 一人でも多くの子どもたちの命を守りたい。そういう思いでオリジナルの脚本を書きました。 劇を通して共に考えていける場になればと思います。
			16:20～	閉講式		